

水道メーターの生産に携わる仕事で
人々の生活をより便利にできる。

未来の自分は、
今の自分の一歩で
変えられる!!

関野 安寿貴さん(1991年生まれ)

愛知県立岩倉総合高校 出身

中部大学 工学部卒業

愛知時計電機株式会社

名古屋市中村区千代1-2-70

<https://www.aichitokei.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→理系の専門学校や4年制大学を修了
→生産技術職のある企業に就職

——学生時代

「高校生のころ、ドラムに興味をもち、音楽を始めました。学校に軽音部がなかったたので、同じように音楽が好きなお友達たちとバンドを組み、学校近くのスタジオを借りて練習していました。初めて大人数の前で演奏を披露した文化祭のことは今でも印象に残っています」

大学時代のことを教えてください。

「小さいころから自分の頭の中にあるものをつくるのが好きだったので、機械の仕組みや図面のことを勉強したいと思い、中部大学の機械工学科に進学。実習では図面にしたがって旋盤などの工作機械を使い部品を加工し、それを組み立てて小さなロボジャッキを作りました。また、CADという製図ソフトを使って、紙の図面を3Dに描きおこす授業も好きでした。就職活動では、大学で学んだ機械設計の仕事ができる会社を探し、愛知時計電機に出会いました。県内にありシェアも大きく、先輩社員の方々の印象もすごく良くて、「こんな人たちと一緒に働きたい!」と就職を決意。どの家庭にも一つはある水道メーターやガスメーターを作る仕事に携わること、多くの人の生活をより便利にできるということにも魅力を感じました」

——仕事について

「生産技術部に配属され、製品を生産する(組立・検査する)ための設備・装置を導入する仕事を担当。様々な知識が必要な仕事のため、新人のころは勉強の毎日でした」



現在の仕事内容を教えてください。

「他部署さんからの『新製品を作るためのこんな設備が欲しい』『今の設備を改善して欲しい』という要求に対してどうすれば目的を達成できるかを考えます。構想から始めて、設計・製作までを自分でやることもありますが、時間や規模・進行中の他案件との兼ね合いで外部の設備メーカーさんに発注することもある。設備が出来上がったら、要求のあった部門さんに引き渡します」

大切にしていることは何ですか?

「常に『なんでだろう?』と思いがちで生活することです。ほんの些細なことでも疑問を持ち、その疑問を自分できちんと調べることで、自分の知識として身につけていくと思うからです」

——やりがい

「試行錯誤を繰り返して、悩むことも多い仕事です。でもその苦労を乗り越え、設備を導入した結果、『すごくいい設備だね』『おかげで作業がすごく楽になったよ』という声をいただけるときは、この仕事をやっていてよかったなと思いますね」

——なるためには

「生産技術は設計・開発と製造の間」に立ち、パイプ役となることもあります。設計側が『こうしたい』と言っても、製造側が『これでは作りにくい』と言うことはよくあります。様々な視点から物事を見て、目的達成のためにどんな仕様が最適なかを判断する発想力・想像力が最も重要で、伝えるコミュニケーション能力が必要で、僕は自身は、学生時代に音楽を通じて知らない大人たちの中に飛び込んで得たコミュニケーション能力が、今でも役に立っています」

お忙しい中、ありがとうございます。



自分
安寿

22歳



25歳



28歳

愛知時計電機の生産技術部で働き始める。足りない知識を補う日々。

経験と知識が増えたことで業務の幅が広がり、自信がもてるように。

速く・安く・品質よく製造できる設備を作るため、試行錯誤を重ねる。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



バスケのサポートとエンブレムの開発。
2つの目標に挑み続ける毎日です。



山下 貴哉 さん (1992年生まれ)

愛知県立五条高校 出身
立命館大学 理工学部卒業

豊田合成株式会社

清須市春日長畑1
<https://www.toyoda-gosei.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業 → 大学卒業 → バスケットボールチームを運営する企業に入社 → バスケットボール部マネージャー

— 学生時代

「中学生のころからバスケットボールに夢中でした。ポジションは長身をいかしたセンターやパワーフォワード。高校の部活動では自分たちで練習メニューを組み立てるなど、目標に向かって努力することの大切さと楽しさを学びました。一方で昔からクルマが好きで、ものづくりの仕事にあこがれていて、実は高校時代、豊田合成バスケット部の練習を見学させてもらう機会があり『将来、こんな会社で働けたらな』と思っていました」

大学では何を学びましたか？

「ものづくりに関する勉強とバスケの両方に専念できる、立命館大学に進学しました。理工学部のロボティクス学科で、主にロボットの目にあたる画像処理について研究しました。もちろん、大学4年間もバスケット漬けの日々。関西1部リーグやインカレにも出場しました」

— 仕事について

「バスケを続けながら、ものづくりの仕事も両立できる、第一志望の豊田合成に入社。豊田合成スコピオンズという企業チームに所属し、当初は選手、現在はマネージャーを務めています。入社試験は、バスケ経験があるからといって特別枠になるわけではありません。きちんと大学で学んだことや仕事への想いもアピールしました。入社して4ヶ月は工場でライン組付をする研修があり、その後、生産技術部に配属となりました」

バスケットボール部マネージャーの仕事について教えてください。

「週4日、通常業務後に行われる練習のサポートに加え、遠征時の移動や宿泊の手配を担当。秋・春のシーズン中は週末に試合があり忙しくなりますが、そのなかで選手にとつてベストなコンディショニングをつくるのがマネージャーの役割です」

エンジニアの仕事内容を教えてください。

「クルマの顔ともいえる、エンブレムをつくる機械の開発担当です。今、自動運転の普及とともにクルマ業界は100年に一度の転換期を迎えています。それにともない、自動ブレーキ対応のエンブレムの開発も急務に。前例のない仕事に苦戦しながらも、未知の領域に挑戦する充実感があります」

— やりがい

「自分が関わったエンブレムを街で見かけるとやりがいを感じます。エンジニアもマネージャーも、仲間とともに試行錯誤を重ね、目標を達成できたときのよこごびは何物にも代えられません」



— なるためには

「自動車関係のエンジニアをめざすには、理工系の大学や専門学校に進むことをおすすめします。何事もただ『好き』だけで終わらせず、背景や仕組みにまで興味をもって学んでいける人に向いていると思います。また英語はあらゆる業界で役に立つので、学生のうちに勉強しておいて損はないですよ。私はバスケとクルマ、どちらもあきらめずにした結果が今につながっています。好きなことや目標は、たくさんあった方がいい。人生、欲張っていきましよう！」

ありがとうございました。



自分
の
決
断

18歳

↓

22歳

↓

26歳

バスケットとクルマ、どちらの夢も追いかける立命館大学へ進学する。

豊田合成に入社。バスケット選手とエンジニアという二足のわらじで活躍。

バスケット部マネージャーに。日々の業務に追われながらも充実の毎日。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



人生の節目にローンを活用いただき、
お客さまの夢を叶えるお手伝いを。



篠田 航平さん(1995年生まれ)

愛知県立尾北高校 出身
愛知学院大学 経済学部卒業

いちい信用金庫

一宮市若竹3-2-2
<http://www.shinkin.co.jp/ichii/>

なるためには

- 必要資格 / 簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士
※いずれも必須ではない
- 主な進路 / 4年制大学を卒業→信用金庫に入庫→生命保険募集人などの資格を取得→融資業務

——学生時代

「高校では硬式野球部でピッチャーをしていて、朝練から始まり夕練で1日が終わるという日々でした。正直、勉強よりも野球に打ち込んでいたと思います。将来は父のように、地元で安定した職業に就きたいとぼんやり考えていました。そのため卒業後は、就職で役に立ちそうな経済について学びたいと思っただけです。ちょうど新しく経済学部が設けられると聞いて、愛知学院大学に進みました」

大学では何を学びましたか？

「お金の流れや世界経済の動きなど、経済学の基礎を学びました。金融のゼミを専攻し、卒業論文は年金を題材に。『この先、50年後に年金制度がどうなるか?』など、学問としてはもちろん、自分の将来にも直結したテーマのため、興味をもって取り組みることができました。現在の仕事内容につながる勉強を、大学でできたのはよかったです」

——仕事について

「大学の授業で信用金庫の業務について学んだとき、金融業界のなかでも、地域の方々に寄り添い貢献できる仕事に魅力を感じて、生まれ育った一宮市で幼いころから馴染みのあった、いちい信用金庫に就職しました。入庫1年目は**生命保険募集人**をはじめ、1〜2ヶ月に一度は資格試験があり、必死で勉強に取り組みました。業務でも専門的な用語が多く、とにかく覚えることだらけで苦勞しました」



現在の仕事内容を教えてください。

「マイカーや住宅の購入、新規事業の立ち上げなどを検討している方に向けて、融資(ローン)のご案内をします。ローンといっても、返済期間や金利、お客さまの年齢などに応じて商品は多種多様。ヒアリングから商品紹介、お申込み、審査、ご契約、完済までのアフターフォローと、短くても3年のお付き合いとなります」

あなたにとってローンは？

「ローンというとマイナスイメージがあるかもしれませんが、信用金庫が地域の皆さまからお預かりしているお金を、必要な人に一時的にお貸しするという、助け合いで成り立っているものなんです。その仲介役を務めるのが、私たちの役割です」

——やりがい

「お客さまから感謝の言葉をいただけると、役に立てている実感ができてうれしいです。『この人に相談したい』と思っていただけるように、安心・信頼していただける接客を心がけています」

——なるためには

「信用金庫の仕事は、しっかりお客さまの声を聞き、意図をくみ取ることが大事です。そのため、聞き上手の人に向いていると思います。資格は入庫後でも取得できるので、勉強以外にもアルバイトなどで、たくさんの人と接してみてください。また、話題のニュースや世界の情勢などが会話の引き出しになるので、今のうちに新聞を読む習慣をつけておくといいですよ。支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れずに、あなたらしい学生生活を過ごしてくださいね!」

ありがとうございました。



18歳 経済学部が新設されることに惹かれて、愛知学院大学へ進学。
↓
22歳 地元で密着した仕事に魅力を感じて、第一志望のいちい信用金庫に入庫。
↓
24歳 融資業務を担当。さらにニーズに応じた提案をめざして日々勉強中。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>





活動をするなかで、ターニングポイントとなった出来事は？
「FM AICHIでレギュラー番組※が決まったり、CMに出演・楽曲提供をしたり、徐々に活動の幅が広がっていききました。いまでは、Bリーグ『豊通ファイティンググーグルス名古屋』公認応援歌、地元のお祭りの公式テーマソングなど手がかけてもらっています。でも感覚としては、『よし、いけるぞ！』というよりも『しっかりしないと』という感じ。ファンやスポンサーさんに対する責任感が芽生えました」
——活動内容
「ライブハウスだけでなく、ショッピングモールや温泉施設など、音楽目的じゃないお客さんの前でライブをする機会が増えました。そんなとき、その人たちをどう自分に惹き

つけるかが勝負です。そこで、下積み時代に培った経験やスキルがいかせていると思います」
心がけていることは？
「初見の人にも、フラッと見て楽しんでもらえるような楽曲やライブパフォーマンスを意識しています。曲間のMC内容も、お年寄りや子供たちにも親しみやすい言葉を使うようにしています。あとは、髪型です（笑）。ピンクのトサカがトレードマークになっていて、覚えて頂いたり、声をかけて頂いたりするのがとてもうれしいです。毎週、髪型の手入れは欠かせません」

音楽を通して伝えたいことは？
「楽しくて前向きになれる曲が多いので、マジパレの曲を聴いてポジティブな気持ちになっただけです。あとは、葬儀会館『テア』さんのCMでも楽曲を使っていただいてるんですけど、命の大切さも伝えていきたいと思っています。いま、この一瞬一瞬の大切さをメッセージとして伝えていきたいです」
音楽と並行して、俳優としての活動もされているんですね？
「名古屋のインディーズ映画に出演したことがあって、そのバックステージに僕が小さく写っていたんです。偶然それを見た、『るろうに剣心』のキャストینگ担当者が『こういうキャラクターを探してた』ってなって（笑）。オーディションもなく、呼ばれてすぐに衣裳合わせでした。それから、アクション監督が一緒だった『HIGH & LOW』にも声をかけていただいたという流れです」
俳優活動で意識していることは？
「その役は、自分であって自分ではない。その役の人間性を掘り下げて、その役になりきることを意識しています。音楽活動も、普段の自分とは違うという点では演じている部分はあります。でも、あくまでそれは自分の中から滲み出るもの。そのスイッチは使い分けています」

——やりがい
「特別支援学校などでライブをする機会もあるので、障がいのある方がライブに足を運んでくれることも増えました。たとえば、普段は言葉をしゃべれない自閉症のファンの方が、マジパレのCDを聴きながら歌詞を口ずさんでいたみたいで。それを妹さんからの手紙で知りました。そういうところに自分たちの存在価値があるのになって思います。活動を続けてきてよかったと思える瞬間が増えましたね。俳優としてのやりがいは、映画や舞台のクランクアップ、千秋楽を迎えたときの達成感です。みなさんが、文化祭や体育祭でチーム一丸となって取り組む一体感に似ていると思います。みなでひとつのことをやり遂げた瞬間は、音楽とは違うアドレナリンが出ます！」



積極的にチャレンジをしているんな経験を重ねてください。
過去の活動を振り返ってみても、無駄だと思ふことはひとつもありませんよ！

YOUTH ユースフラッシュ FLASH

尾張地区出身の有名な人インタビュー

稲沢東高校出身のミュージシャン・俳優、TAKAO/山田崇夫さんを独占取材！

活動を始めた初期衝動は、人前で何かパフォーマンスをしたいというシンプルな思いから。大学卒業直前に音楽活動を始め、2015年にマジカル♡パレードBEACHを結成。それ以来、徐々に活躍の場を広げ、いまや音楽活動にとどまらず、俳優としても数々の映画に出演するTAKAO/山田崇夫さんをインタビューしてきました。

——高校時代
「高校時代を思い返しても、ろくでもない思い出しかないですね（笑）。でも部活だけは、まじめに3年間休まずに続けました。陸上部で種目は砲丸投。中京大学ではアメフト部に入っていましたし、高校大学とスポーツに熱中していた感じですね」
高校生のときから音楽活動をしていたわけではないんですね。
「そつですね。当時は、みんなが聴くようなJPOPを僕もずっと聴いていました。DAMPさんの『if...』っていう曲を教室で歌って踊っていた記憶があります（笑）。活動の原点でもあるヒップホップを聴きはじめてのは大学に入ってから。当時流行っていた、キック・ザ・カン・クルーやリップスライムから掘り下げていった感じです」
——音楽活動を開始
「音楽活動をしていた大学の後輩から、『体の大きいインパクトのある人がメンバーにほしい！』ってずっと誘われていました。歌声とかではなくインパクトだけで（笑）。でもアメフト部に入っていたし、ずっと断っていたんです。大学卒業後も、俳優をめざして日本映画学校に行こうと思っていた」
でも最終的には音楽活動を？
「もともと根本は、人前で何かを表現したい、パフォーマンスをしたいという思いです。俳優はひとつの選択肢でした。でも後輩に、『俳優よりラッパーのほうが絶対にモテますよ！』って言われ、『確かなな』

て（笑）。大学を卒業する1週間前くらいに、その後輩の音楽グループに加入しました」
——下積み時代
「初ステージは、深夜帯のクラブイベントでした。持ち時間は10分で歌えるのは2曲。緊張はしていたと思うんですけど、酒を飲んで楽しくなっていたのであまり記憶に残っていないですね（笑）。下積み時代といっても、当時は遊びの延長みたいな感覚。活動の場も深夜のクラブが多かったんで、歌って酒を飲んでみんなでワイワイして、みたいな感じでした。思っていたこともなかったです。教員や介護の仕事しながら、そんな生活を7年くらい続けました。下積みの苦労を感じるようになったのは、いまのマジカル♡パレードBEACH（通称マジパレ）の活動を始めてからです」
最初に苦労したことは？
「地元が一緒だったこともあり、知人の紹介でMIKAとAKO姉妹と一緒にマジパレを結成しました。それが2015年ですね。最初は、いままでのファンがゼロになって1からのスタート。活動する場所もなし。本当に大変でした。後輩がやっているビアガーデンで毎週ライブをさせてもらったり、いろんなところをドサ回りました。感じてくれた。少ないながらも応援してくれるファンの方々がいたので、応援していて恥ずかしくないグループにならないと、っていう思いはずっとありました」

TAKAO/山田崇夫 さん(1982年生まれ)

稲沢東高校 出身 / 中京大学 現代社会学部卒業



- 22歳 大学の後輩に誘われ、音楽活動を開始。教員や介護士として働きながら活動を続ける。
- 32歳 マジカル♡パレードBEACHを結成。活動に対する責任感も芽生える。
- 37歳 チャレンジする気持ちを忘れず、ミュージシャン、俳優と幅広く活躍！

お客さまの愛車への想いを大切に、
長く快適に乗っていただくサポートを。



段 和輝さん(1990年生まれ)
愛知県立起工業高校 出身

東海マツダ販売株式会社

名古屋市長瑞穂区二野町3-18
<https://www.tokai-mazda.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 3級自動車整備士※入社後にも取得可能
- 主な進路 / 高校卒業→専門学校の自動車整備コースに進学
→3級自動車整備士の資格を取得→自動車ディーラーに就職

——学生時代

「テレビでラグビーの試合を見て興味をもったことから、高校時代はラグビー部に所属。部活に追われる日々を過ごしました。一方でスポーツカーを中心としたクルマにも熱中し、よく自動車雑誌を眺めていた思い出があります。それに通じる分野として、工業高校の電子工学科で、ロボット工学やプログラミングといった電子回路について勉強しました。今の仕事でパソコンを使って異常の原因を調べる際は、高校で学んだ知識が生かされていると思います」

——仕事について

「高校生だった当時、漫画の影響で特にハマっていたのがマツダのRX7という車種です。デザインに一目惚れしたことはもちろん、他社とはつくりが異なる独自のエンジン構造もとても魅力的で。そんなあこがれのディーラーから、高校に求人票が来ているのを見つけて、即座に応募したのが入社の日でした」

入社後は何から始めましたか？

「まずは点検や整備に必要な、クルマの構造について一から教えるというところからスタート。物理学で成り立っている仕組みを理解するのに、最初はとても苦労しました。それでも知識をつけながら、実際にクルマの内部を見て理解することを繰り返し、3級自動車整備士の資格を取得することができました」

仕事内容を簡単に教えてください。



「車検・点検・整備を担当するエンジニアです。たとえば『エンジンから変な音がする』など異常がある場合、部品ごとにテストしながら原因を探っていきます。経験や知識が増えるほど交換すべき部品の目星を見つけられるようになるのが醍醐味です。またお客さまの希望に合わせて純正部品のセッティングなども行います。多い時は1日7～8台を担当します」

大切にしていることは？

「通勤で使うのか、趣味として楽しむスポーツカーなのかなど、お客さまによってクルマの乗り方は様々です。そうしたスタンスを会話しながら見極め、要望に合わせたご提案をするように心がけています。大切な愛車をお預かりしているという責任感も忘れません」

——やりがい

「クルマの故障が直り、お客さまが笑顔で帰っていくのがよるこびです。また、スポーツカー以外のクルマの魅力に気づけたのも、今の仕事のおかげだと思います」

——なるためには

「自動車整備士の資格をめざすには、専門学校または大学に進学する進路のほか、私のように働きながら勉強するという選択肢もあります。エンジニアはクルマだけでなく、その先にいるお客さまとも向き合う必要があります。人と話すのが好きな人に向いていると思います。今のうちからできるだけクルマにふれ、エンジンルームの内部や構造などに興味をもってみるのもいいでしょう。精神を鍛えるという意味で、スポーツに打ち込むのもおすすめです！」

ありがとうございました。



自分史

17歳
↓
18歳
↓
25歳

ラグビー少年だったが、漫画がきっかけでスポーツカーにも夢中になる。

あこがれの車種を扱う東海マツダに入社。働きながら知識と技術を養う。

資格を取得し自動車整備主任者へ。分解などさらに高度な整備を担う。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





「安全・迅速・確実」がモットー。
1分1秒を争う人命救助の現場へ。

伊藤 直人

さん (1991年生まれ)

愛知県立小牧高校 出身

東京法律専門学校 名古屋校 法律社会学科卒業

丹羽広域事務組合消防本部

丹羽郡大口町上小口 1-624

<http://www.niwakouiki.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 大型自動車免許、救急救命士※入署後に取得可能
- 主な進路 / 高校卒業→専門学校の公務員対策コースに進学
→地方公務員試験に合格→各自治体の消防本部に配属

——学生時代

「小学生のころからずっと、将来の夢は消防士になることでした。地元消防士による放水の実演を見る機会があり『カッコいい!』とあこがれたんです。昔から体を動かすことが好きで、中学、高校ではバスケットボールをしていました。キャプテンを経験したことで、チームをまとめる力や、チームワークの大切さも身につけることができました」

専門学校で学んだことは?

「公務員試験対策として2年間、勉強漬けの日々でした。学科試験はもちろん、適性検査や面接の練習もできたのがよかったです」

——仕事について

「消防士になるための試験内容は各自治体により異なりますが、学科試験や面接のほかに、体力測定や作文、集団討論(ディスカッション)などを行うのが一般的です。多いところでは5次試験まで行う自治体も。合格倍率は約20倍という狭き門です」

合格後、研修はありますか?

「最初の半年間は消防学校に入校し、ホースの延長や火災の消し方、機材の扱い、消防法などを学びます。火災が発生した時に着用する防火衣は、すべて装備すると約20キロ。体力には自信があったのですが、慣れるまでは体を動かすのに必死でした。配属後も訓練を行い、消防長に成果を認められてようやく業務にあたることができます」



仕事内容を簡単に教えてください。

「救急・火災現場への出動に加え、火災が起きた時に備えた訓練や体力づくり、地域での防火訓練指導なども仕事です。初めて火災現場に出動したのは、忘れもしない大晦日の夜でした。足元の暗さや煙の量などに圧倒されたのを覚えています。それ以来、訓練への向き合い方が変わりました」

出動体制について教えてください。

「救急や火災の現場では、1分1秒に人命が懸かっています。そのため要請が入ったら1分以内に出勤するのが鉄則。たとえば入浴中なら湯船に飛び込んで泡を落とす。仮眠は靴下を履いたままなど、どんな時も速やかに動けるようにしています。誰が出動するかは事前に決まっているの、ほかのメンバーが着替えを手伝います」

——やりがい

「火災はないに越したことはありませんが、困っている人を助けられるのは大きなやりがいです。後日、感謝の言葉やお礼のはがきをいただけると感激します」

——なるためには

「消防士は人のための仕事です。体力や公務員試験を突破する学力も必要ですが、それ以上に、困っている人の役に立ちたいという気持ち強い人に向いていると思います。また集団行動に必要なチームワーク、規律や上下関係を重んじる精神も求められます。学生のうちからボランティアなどに参加し、友達以外の人も積極的に関わってみてください。学生向けのインターンを行っている消防署もあるので、興味のある人はぜひ見学に来てみてください」

ありがとうございました。



自分史検索

18歳



21歳



26歳

長年の夢だった消防士を本格的にめざすため、専門学校に進学。

地元の消防署に入署。消防車両の運転のため、大型自動車免許を取得。

現場の第一線を担う救助隊に拝命。消防副士長として後輩の指導も担う。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



自分の曲が、時に誰かの支えになる。
聴いた人の笑顔がやりがいです。



大平 浩之さん(1980年生まれ)
愛知県立丹羽高校 出身

D.M.Sound

犬山市羽黒鳳町96-4 ガーデンコート犬山B
<http://www.dm-sound.com>

なるためには

●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→音楽系の専門学校または音楽大学に
進学→音楽クリエイターの弟子として経験を積む→音楽クリエ
ーター

— 学生時代 —

「小学校1年から習い事でピアノを始めました。小・中学校では父の影響で野球部に所属していて、野球ばかりしていた思い出があります。ただ、小学校5・6年のとき、熱中していたゲームのBGMが好きで、作曲家にファンレターを書いたことも。思えば、そのころから曲づくりに興味がありました」

音楽を真剣に始めたのはいつ?

「中学時代、好きなバンドの影響でプロになりたいと思うようになりました。ボーカルよりも作曲家にあこがれていて、最初はラジカセに多重録音するというアナログな方法で作曲りをスタート。高校に入るとシンセサイザーを使って、作曲からドラムの打ち込み、演奏、ボーカルまで一人でこなし、プロ(デモ音源)をつくるようになりました。また友人と組んだバンドでは、ドラムやキーボードを担当していました」

— 仕事について —

「20歳ごろから、名古屋のクラブで自作の曲を歌い始めました。それがきっかけでラジオのプロデューサーから誘いを受け、ラジオ番組に出演しながら、インディーズのR&Bアーティストとして活動。しかし、CDが売れない時代のおおりに受け、30歳のときに一般企業に就職しました。5年間、正社員として働きながら、月2〜3本のライブ活動やトラックの提供は続けていました」

独立した経緯を教えてください。

「友人の協力でホームページを作り、音楽家としてできることすべてを載せました。すると想像以上に問い合わせがあり、本格的にスクール開業することに。3ヶ月で生徒20人ほどが集まりました」

現在の仕事内容を教えてください。

「音楽クリエイターとして企業テーマソングやBGMなどの楽曲提供、アーティスト活動をする傍ら、スクールを運営しています。ボーカルレッスン・ギターレッスンのほか、DTMというパソコンソフトを使った作曲方法なども指導。オンラインでのレッスンも行なっています。生徒には「プロデューサーとしてサポートもしています」

— やりがい —

「提供した楽曲を聴いて、喜んでもらえることがうれしいです。自分の表現したものが、思わぬところで感動してもらえたり、結果的に人のためになることもあるのが音楽の魅力だと思っています。また、若い世代が楽しく健全に音楽を続けられるように導いてあげることがやりがい



の1つです」

— なるためには —

「音楽クリエイターやプロのミュージシャンをめざすなら、専門学校や大学で音楽理論を学ぶといいですよ。できれば幼少期から、楽器とふれあう時間をできるだけ多く過ごし、音感やリズム感を体で覚えていくのが理想です。今はインターネット社会で、とにかく情報量が膨大な時代です。学生のうちはSNSの狭い界限だけにとらわれず、さまざまなジャンルの幅広い意見に耳を傾けてみましょう。何でも好きなことを突き詰め、続けることが大事です!」

ありがとうございます!



自分
の
経
歴

19歳

↓

30歳

↓

35歳

大学を中退して音楽の道へ。その後、歌手として4枚のCDをリリース。

一般企業へ就職。震災時には復興支援にも携わる。一方で音楽活動も継続。

独立してスクールを開業。作曲やプロデュースなどマルチに活躍する。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



人生に無駄な経験なんてありません。
その経験に意味をもたせるのは自分。

梅澤 英生 さん (1977年生まれ)

愛知県立新川高校 出身

中京大学 経済学部卒業

清須和菓子工房うめざわ

清須市西枇杷島町花咲 87-1
http://waume.net

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→製菓の専門学校に進学→和菓子屋で修行を積み→独立して自身のお店をオープン

——学生時代

「高校時代はバスケットボール部に入っていて、部活に青春をかけていました。みんなでひとつの目標に向かって頑張った経験は大切な思い出ですね。将来のビジョンに関しては特にもっていなかったのですが、大学の4年間で何かを見つけたらと思う、中京大学に進学しました。大学時代は、スノーボードサークルや喫茶店のアルバイトが印象に残っています」

——仕事について

「この道に入る前は、和菓子の材料を扱う商社で働いていました。そこで、和菓子の試作を手伝ったり、新商品を提案したりしていくなかで和菓子職人に興味をもちはじめました。商社の仕事は、お客様に合わせて既存の商品を販売すること。自分で新しい何かを作り出すこの仕事に大きな魅力を感じたのです。28歳のときに商社を辞め、愛知県内の和菓子屋で修行を始めました」

下積みについて教えてください。

「まずは、あんこを炊く、生地を練る、合わせる、成形するといった和菓子づくりの基本技術を教わりました。印象に残っているのは、『いい仕事をする』ということ。おいしい和菓子を作るためには手間を惜しみません。そのうえで、ひとつひとつの作業スピードを上げるのが大切だと教わりました。9年間修行を積み、37歳のときに独立して『清須和菓子工房うめざわ』をオープンしました」

現在の仕事内容を教えてください。

「おいしい和菓子を作ること、新しい和菓子を創造することももちろん、『和菓子』という日本の伝統文化や魅力を伝えることも意識しています。ただ、あくまで和菓子は嗜好品なので、みなさんには単純に味や見た目の美しさを楽しんでもらえたらと思います」

心がけていることは？

「心がけているのは、糖度計などを使い、しっかり数字で作業工程を覚えること。適当にこれくらいかな、という仕事はしません。あんこを炊くときも、小豆の種類だけでなく、気候や湿度によって微妙に調整が変わってきますからね。あとは、新しい和菓子を創造できるように、いろんなモノを見たり食べたりするようにしています」

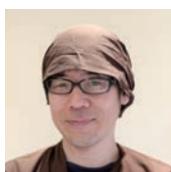
——やりがい

「お客様の『おいしかったです』という言葉、やっぱり自分が作った和菓子を評価してもらえたときがうれしいですね。新商品が評価されたときは、『何度も試作を繰り返し返して完成させたかよかった！』という達成感があります」

——なるためには

「王道は、製菓の専門学校に行ったのち和菓子屋で修行を積んで独立する方法です。独立をめざすなら、いろいろな和菓子屋で働くことをおすすめします。独立には、製造機械などの初期投資がかなりかかります。借入の相談では、『お店をやりたい！』という熱い気持ちだけでなく、データにもとづいた冷静な分析力も大切になってきますよ。それも頭に入れて修行を積んでください。人生に無駄な経験なんてありません。その経験に意味をもたせるのは自分自身ですよ！」

ありがとうございました。



28歳

↓

37歳

↓

42歳

自分史

勤めていた商社を辞め、和菓子屋で修行を始める。

独立して自身のお店、「清須和菓子工房うめざわ」をオープン。

「おいしい」の言葉にやりがいを感じ、日々、和菓子づくりに精を出す。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

